

第8回白井市行政経営改革審議会 会議録(概要)

- 1 開催日時 平成30年3月2日(金)午後7時から午後8時25分まで
- 2 開催場所 市役所本庁舎 3階会議室301
- 3 出席者 坂野会長、宗和副会長、岩井委員、片桐委員、伴委員、藤井委員、本松委員、山本委員
- 4 欠席者 0人
- 5 事務局 行政経営改革課 岡田課長、高山副主幹、元田主査補
- 6 傍聴者 5人
- 7 議題 行政経営改革の評価方法(案)について
- 8 議事

事務局(元田) 定刻となりましたので、平成29年度第8回白井市行政経営改革審議会を開催させていただきます。

では、開会に当たりまして、会長からご挨拶をお願いいたします。

坂野会長 皆さん、こんばんは。本日は非常に暖かい日で、会議も温暖な会になるのかなと思っています。前回にお話しいたしましたが、1990年代は、行政評価の時代として「評価」がとても話題になりました。近年も今回の行政経営という考え方から、「評価」がはやってきています。本白井市に関しましては、平成29年度から総合計画の評価に外部評価を行っているということです。そういう意味では、評価においても、白井市の看板の一つである参加が強調されていると思います。そのため、こちらにおいても参加の視点を入れて、今まで皆さんとたくさん議論をしまいましたが、そういったことも含めながら、本日も考えていきたいと思っています。では、慎重審議よろしくをお願いします。

事務局(元田) ありがとうございます。

続きまして、白井市行政経営改革実施計画の決定について報告をさせていただきます。

事務局(岡田) こんばんは。それでは私のほうから行政経営改革実施計画の決定について報告します。

本日、答申書の最初の1ページを配布しましたが、前回まで議論いただきました内容について、配慮して取り組んで欲しいという意見を加えて、2月22日付で市長宛てに白井市行政経営改革審議会会長から答申をしたところでございます。

その答申を受けまして、市では、2月28日付で行政経営改革実施計画を決定したところです。

第7回までの会議については、皆様方から非常に活発な議論をいただいて、ようやく実施計画ができ上がりました。本日、ご報告とお礼を申し上げます。

なお、来週早々にホームページで公表できるようにしていきたいと思ひます。また、広報しろい3月15日号で、計画を策定したということについて市民の方にお知らせをする予定です。

議員の皆さんについては、来週の月曜日にお手元に渡るようになっておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

坂野会長 ありがとうございます。

事務局(元田) それでは、本日の議題に入らせていただきます。議題として、「行政経営改革実施計画の評価方法(案)について」となります。会長、よろしくお願ひいたします。

坂野会長 では、ただいまからお話を進めていきたいと思ひます。着座にてよろしくお願ひします。

まず、議題でございますが、まず、事務局からご説明よろしくお願ひいたします。

事務局(元田) 本日の議題は一つだけとなっております。お手元に資料を配布しましたのでご覧ください。

本日の議題は、「行政経営改革実施計画の評価方法(案)について」と設定させていただきました。こちらにつきましては、あくまでも事務局として提案させていただきます評価方法の案として、現段階でのたたき台ということになっています。

今後、皆さんが直接評価をしていただくこととなりますから、市が提示するたたき台の評価方法をもとに、実際に評価する視点から皆様に意見をいただければと思ひます。

今回いただいた意見をもとにし、市で検討を行い、評価方法を決定していきたいと思ひています。

それでは、行政経営改革実施計画の評価についてご説明をさせていただきます。

行政経営改革実施計画においては、行政経営改革実施計画の進行管理及び実施に伴う評価は、庁内組織として市長をトップとした行政経営戦略会議で行うとともに、市の附属機関である行政経営改革審議会において、市民及び学識経験者により、外部の視点で行うこととしています。皆様に外部の視点で行っていただくことになっていて、第1回の会議でもご説明をさせていただいたところでは。

また、行政経営改革実施計画の実施内容や目標、効果については、適宜見直しをすることになっています。このことから、平成31年度以降に実施する評価の大きな目的として、進行管理を担う評価であるということが、この計画の中で既に位置付けしているところでは。

お手元のA3の資料1、(1)をご覧ください。(1)評価の目的として具体的に二つの項目があります。

一つ目は、行政経営改革実施計画の進捗状況を管理し、行政経営改

革実施計画の取組項目を計画どおりに実施するためと先ほどご説明させていただいた内容になっています。

もう一つは、実施状況や進捗状況に基づいた計画を見直すことで、より実効性の高い計画とするためということになっています。こちらについては、今回のこのような評価の目的としては、1段目の一つ目のところが取組項目の進行管理ということになっておりまして、二つ目のものが進捗状況の把握と見直しということになっているところです。

続いて、(2)の評価の方法についてご説明をさせていただきます。

市が考える評価方法の案では、こちらについては、先ほど最初にご説明したとおり全くの案ということになっていますが、次のような評価方法を考えています。評価については、全ての取り組みについて実績を基に評価することを考えています。従いまして、この計画では平成30年度からの3年間の計画となっておりますので、30年度に実施する取組項目の評価は31年度に評価をするということになっています。

評価はこちらの図のとおり、初めに担当課による自己評価を行い、その上で行政経営改革審議会、こちらの審議会外部評価を踏まえて、市長を初めとする組織である行政経営戦略会議で決定するものとして、最終的な評価結果は、行政経営戦略会議での決定としているところです。

それでは、評価の役割について、評価の役割という表をもとにご説明させていただきます。左の自己評価、外部評価、決定という順番に基づいて説明させていただきます。

自己評価については、各担当課が52の全ての取組項目について評価シートを作成することとします。担当課が複数ある場合は、担当課の中で中心となる課が、各担当課がその意見を踏まえて作成することとしています。評価シートのイメージについては、お手元の資料2、平成30年度行政経営改革実施計画評価シートのイメージをご覧ください。こちらについては、全くのイメージです。内容をいろいろ細かく入れているのですが、内容は、あくまでもわかりやすくしたイメージで、実際の話ではないです。

計画の策定に当たり、最初に事務局からご説明させていただいた際には、計画書の1ページに計画の内容を書いて、その中に評価の実績も書き込んで、A4、1枚で評価まで全部をやっていきたくて説明させていただいたところですが、今回検討するに当たって、計画の内容をかなり細かく検討したこともあって、この計画書にさらに実績を入れると、ごちゃごちゃしてわかりづらくなるため、今回、事務局の提案としては、このように資料2として別のシートをつくる提案をさせていただくものです。

ただ、こちらの量については、見ていただくとわかると思うのです

が、簡潔に一つの取り組みについて1列で示して、わかりやすくしたいと思っています。

多分、文章が少ないと感じられるかもしれませんが、文章は多くしても、結局は作文が多くなり、内容を把握することが難しくなります。この評価シートは、また後ほど説明しますが、外部評価、総合評価のそれぞれで使う資料ということになりますので、できる限りシンプルな内容にしたいと考えています。

内容については、先ほどご説明したとおり、全くの仮のものですが、このシートの網掛け部分については、担当課が自己評価として書くものです。

評価項目については、また後ほど説明させていただきますが、白地の部分は事務局で計画から転記して作成します。例えば、平成30年度の目標は白地ですので、そのまま事務局で転記し、右側は、実施した内容について、それに対比する形で、自己評価として、何をどう、いつやったかということを担当課が書き入れて、比較できるものとします。また、スケジュールや成果については、シンプルに選択式としています。

また、効果、効果額、今後の課題とか今後の方向性については、また後ほどご説明させていただきますが、1行で1取組項目、計画書の1ページを1行のイメージとしています。

それでは、資料1の(2)に戻って説明します。表の部分をご覧ください。

担当課の自己評価については、全事業について、この評価シートを作成するという事になっています。その上で担当課が、計画をやってみたところ、これはおかしいのではないか、変更が必要ではないかという取り組みについては、改めて、今回お配りしました計画を直すということとしています。

自己評価は、進捗状況の評価と見直しを自分たちで検討するものとして考えているところです。

続いて皆様に実施していただく外部評価について説明させていただきます。

先ほど、評価の目標については、進行管理と見直しであるということについてご説明をさせていただいたところです。

まず、なぜ、市は、外部評価を行うのかということについて説明いたします。

市が今回の計画の中で外部評価を行いたい理由として、外部評価については、この審議会で行いますので、皆さんが公開で行うことになります。公開で行うことによって、担当課が自分たちだけで都合のいい評価をしないようにする歯止めの部分になると思いますし、なによ

りも、担当課だけで実施すると、やはり職員というのは、「計画にあるからやらなくてはいけない」という考えに陥りがちなので、実際の目的に立ち戻って、「もう目的達成しているのに、意味がないのではないか」というようなことを自らチェックして見直しづらいところです。そこで、市民の目線から、「やる必要がないのではないか」とチェックするという視点で外部評価を実施したいと考えています。

それでは、外部評価について、この表で説明させていただきます。

外部評価の評価者は皆さん、行政経営改革審議会に行ってくださいということになっております。評価については、当初5月1日の第1回会議において諮問させていただいたところですが、市民、学識経験者のそれぞれの視点を踏まえて、皆さんで議論していただき、審議会としての評価を決定し、市長に答申していただくということになります。こちらについては、皆さんに議論をしていただいた上で、結果を答申していただくということになっています。

先ほどの自己評価については、担当課が行うのは、1課当たり、多い課でも数事業ですが、この外部評価については、52の取組項目全てを評価する必要があるため、評価を一個一個きっちりと実施した場合は、大変な時間がかかってしまいます。

そのため、評価方法については、メリハリをつける必要があると事務局で考え、これからご説明させていただくような形の評価方法を提案させていただきます。

外部評価の評価方法については、担当課が自己評価で作成した先ほどの資料2の評価シートをもとに評価していただきまして、この評価シートにおいてスケジュールが計画どおりであって、成果についても計画どおり、つまり実施状況が良好な取組項目については、今回の計画管理という目標からすると、既に達していることとなりますので、内容を確認していただくに留めるという形を考えています。

今回の評価において、特に外部の視点で特に評価していただきたいのは、スケジュールと成果が、ともに計画どおりでない取組項目、先ほどの対比ですと、実施状況が不良な取組項目について具体的に評価をしていただく必要を考えています。

先ほど、自己評価の中で計画の見直しが必要なものについては、計画書をつくるのだというお話をさせていただきましたが、そちらについても見直しが適切かどうかということについては、評価の見直しということもありますので、見直しが適切かどうかについて、皆さんに調査、審議をいただきたいと思っています。

さらに、それだけではなくて、担当課の自己評価において実施状況が良好なものとして評価したものであっても、皆さんがこの資料2の評価を見ていただいて、内容の中で、これおかしいなとか、例えば皆さん

のチェックで、実施状況としては担当課のほうはいいと言っているけれども、実際は隠れた実施状況の不良や、課題があるにもかかわらず、担当課が現状どおりでやると書いたものについて、これは見直しが必要なのではないか、そういうようなところについてチェックをいただきたいと思っています。個々の取組項目については、先ほど言いましたように、それぞれ一個一個見ていく形になりますので、質疑等をしっかりしまして、一つずつ評価していただいた上で、皆さんで、これは見直したほうがいいのか、ここは直したほうがいいのか、こういう形でやったほうがいいのか、そのあたりについて、一つ一つの事業について答申をしていただきたいというふうに思っています。

最後に、自己評価、外部評価と説明しましたが、決定についての部分についてご説明をさせていただきます。

市長を初めとする庁内決定組織である行政経営戦略会議では、担当課の自己評価と、皆さんの答申を踏まえて、その中で今回の評価についてということを決めていきたいと考えています。また、評価の結果、評価取組項目の見直しが必要な取組項目については、見直しを行うことにするというにもなります。

全体を通じてですが、この結果は、市民に公表していきます。自己評価、外部評価、決定という部分について、公表を意識した評価方法案を示させていただきました。

今回の評価については、市民に公表するとしています。自己評価における評価シートについては、あくまで中間評価となりますが、行政経営改革審議会の資料として出すこととなりますので、その部分で公表していくことで考えています。

また、この審議会については公開もしていますので、評価過程を公表するというのと、答申については、答申結果を公表して市民にお知らせをするということになっています。

行政経営戦略会議については、評価シートを評価結果として、最終的なもの、自己評価のもの、皆さんの答申による意見のものを踏まえて、市としての対応ということで、評価シートを公表することでやっていくということを考えています。

続いて、右側の評価のスケジュールをご覧ください。

評価については、先ほどご説明したとおり、取組項目の実施後に評価を行いますので、平成30年度の評価については、平成31年4月に実施することを考えています。このスケジュールについては、全くの事務局の案ですが、平成30年度が終わった早々に自己評価を始めまして、31年度4月ごろに担当課に自己評価をさせる。その結果を踏まえて、5月、6月、7月の間に審議会で審議をしていただきまして、その後、その結果を踏まえて7月に行政経営戦略会議というところで決定して、8

月に公表ということを考えています。この1回、2回、3回の流れについては、どのような評価にしていくかによって全然変わってくるのですが、今の段階では1回目のときに全体を見ていただいて、何か疑問点がないか。疑問点があるものについては、次回以降で細かく深掘りをしていくということを考えています。

進捗状況が悪いものについては、疑問点の前にそもそも一個一個評価をしていくという話になっていますので、悪いものや見直しするものについては、1回目の会議からやっていくというような形で考えているところです。

最後に、評価項目についてご説明をさせていただきたいと思います。

先ほど、資料2を使って評価項目について、少し説明をさせていただきましたが、評価項目の詳細についてご説明させていただきます。特にイメージの関係でどんな内容かというのを見ながらイメージされたほうがわかりやすいと思いますので、資料2をご覧ください。

今回提案した評価については、計画を実施した後に行う、実績について評価を行うことから、この評価項目としては、実績の取組項目についての評価項目というのが必要になっています。そのため評価項目として、まず年度内に取り組んだ内容、最初の部分になりますが、そちらについて評価項目としたいと考えています。こちらについては、先ほども説明しましたが、左側に計画の内容を書いておくことによって、何をやったかやらなかったかというのを対比したことでわかりやすく評価ができるのではないかなというふうに考えています。

続いて、スケジュールと成果ということについて、進捗状況の部分になりますので、スケジュールの成果ということについて、評価の項目として入れていきたいと考えているのですが、このスケジュールと成果については、文章をつくるとなると、実際にはやっていないのだけれども、やったように見えるような書き方をすることがありますので、スケジュールと成果については、事務局の案として、○△×のような選択式とすることで、一目瞭然な形にしていきたいと思っています。

効果、効果額は右側のとおりですが、計画の中で効果として、効果額が出るものについては、実績として○円という効果額とその計算の方法についてご説明します。また、効果額以外の効果については、市の効果、市民の効果ということで挙げさせていただきましたが、文章で記述することを考えているところです。

今回のこの評価については、「見直し」というのも、もう一つの大きなテーマです。それに対応するものが今後の課題と今後の方向性というものになります。今後の課題については、実際に担当課がやってみたところ、状況が当初計画していたのと違ったとか、例えば社会状況

が変わって、もともとこういうルールでやっていたのが、法律ができるなどの理由で状況が変わってしまったとか、そういうこともあると思います。このようなことを今後の課題ということで担当課が書くことをイメージしています。

今後の方向性というのも、それを踏まえて、例えば見直しをする場合であれば見直しに○をつけて新しい帳票をつくっていただく。現状どおりとする場合はこのままとしておく。これを実際にやる必要がなくなったということであれば、終了というのに○をつける。

そのような形で、今後の課題と今後の方向性というものについて、それぞれ書いていただくというような形でできたらいいのではないかとということで、評価項目ということで挙げさせていただきました。

なお、前回会議で、評価項目について議論した際に事務局から、行政経営の計画なので、コストという評価項目を入れたほうがいいのか説明したところ、宗和副会長のほうから、これについては、なかなか難しいのではないかとというようなご意見をいただいております。

コストを評価項目とすることについて、その後事務局で検討したのですが、やはりご指摘のとおり、そのまま直接当てはめることができる数字がないため、どのくらいコストが必要だったかということ計るためには、仕事が職員一人当たり何人分や0.何人分など、数字をつくっていく必要があります。

事務局でも「帳尻合わせでつくったコストを評価することが適切かどうか」ということについて議論した結果、宗和副委員長のご指摘のように、そもそもやる意味がないのではないかと結論に達したところです。

コストについては、確かに「こんなにお金を投入するのに、これだけしか効果がない。」という費用対効果の観点から、事業の中止を検討する場合には、指標としてすごく大切な指標だとは思いますが、今回の評価の目的は、計画の進行管理です。

コストとして、ずばり代入できる良い数字があれば、評価の指標として、ぜひ使いたいところだったのですが、わざわざ帳尻合わせでつくるコストの指標であれば、あまり有効な評価項目でないので、評価項目として取り入れないという案を作成したところです。

以上、行政経営改革実施計画の評価方法について、事務局の案としてご説明をさせていただきましたが、1点説明が漏れていました。

スケジュールについて、4月に評価を始めて8月に評価結果を公表すると説明しましたが、随分前がかりなイメージだと思われるかもしれませんが、前回の会議でも皆さんからお話がありましたが、職員の中で単年度の意識が抜けきらないというような部分もありました。

もちろん1年を通じた評価結果は、年度が終わって、4月にならない

とできないですが、例えば見直しをするものであれば、見直しをすることを早い段階で決めていけば、その年から、反映できます。この例の場合であれば、7月に決定して8月に公表すれば、平成31年度が無駄になりませんので、早い段階で評価するというスケジュールを立てたところでは。

ただし、これはあくまでも案です。これから皆さんに議論いただきたいと思います。

これについては、市の全体の考えがまだないので、皆さんの意見を踏まえて、本日の意見で決まるのか、それとも再度、市で検討した上で、あらためて来年度に審議会に提案させていただくのかということとなります。説明は以上です。

坂野会長 ご説明ありがとうございます。ただいまの事務局からのご説明につきまして、ご質問あるいはご意見等ございますか。

片桐委員、お願いします。

片桐委員 結果的に、この自己評価シートをどこまで信用するかということになってくると思うのですが、先ほど事務局が言ったように、スケジュール、成果、評価について、自己評価する内容が信用おけないということになると、全部チェックする必要が出てくるのです。そこら辺の目途はどこら辺に置けばいいのですか。この評価は信用できるということやっていいのですか。

坂野会長 これはどうしようもない話なのですが、一般論で、片桐委員もご感想があれば教えていただきたいのですが、私の感想としては、市の職員の一般的には内部評価と言われる自己点検、自己評価、あるいは事後評価というこの三つのポイントがございしますが、そういった評価は、私は信用できるものが多いという感想があります。というのは、幾つかの自治体では、結構平気で職員の方が×や△をつけるなど、「これが、×なの？」と私が思うような評価を意外に誠実でいらっしゃる方が多いというのが感想です。

もちろん、以前、私が担当していた市民参加推進会議の評価で疑問のあった自己評価がありましたが、それはもう例外中の例外で、基本的には市の職員のこういった評価というのは、非常に誠実なものが多いというふうに私は受けとめておりますが、片桐委員はこれまでのご経験の中でご感想はいかがですか。

片桐委員 僕はどちらかと言うと内部の人間だったものですから、ほとんど信用ならないのです。特に自分たちのやったことに対して、マイナス的な評価は、誰もしないですよ。

自己評価というのは、よくやった、よかった、よかったという感じになってしまいがちです。だからみんな○になっちゃうのですよ。せいぜい△くらいで、×なんかわざわざつける職員は滅多にいないですね。

多分、そうなってくると思うのですよ。信頼度の問題ですけど、どこまで信用していいのだろうかと思っています。僕も白井市の市民だけれども、白井市の職員をどこまで信用していいのかわからない。

坂野会長

国と自治体の場合というのもあるかと思いますが、この評価項目にもよりますけれど、調査表をどれくらい信頼するかというのは、そこは確かに微妙なところですよ。ただ、評価をやっている自治体は、何年もやっている、意外に自分たちに厳しい人たちも結構出てくるような気がするのですよ。なぜかというと、市民からそれは違うのではないかとと言われるのが怖いので、最初から、もしかしたらおっしゃるように自己防衛かもしれませんが、意外に厳しめの評価が多かったというような感想があります。それについては、岩井委員、いかがですか、どう思われますか。

岩井委員

本当にここは難しいところだと思います。説明責任というところですよ。今は結構ちゃんと出しているところもあるような気はしますけれども、でも片桐委員が言うようなことが絶対ないという保証がなかなか難しいところではあると思います。

坂野会長

確かに絶対はないでしょうね。副会長、その点についていかがですか。

宗和副会長

まずは、職員が評価シートをつくるわけですけど、その評価シートの信頼性ですよ。

課題は、2点あると思うのですが、まず一つは、○、×を付けるに当たって、その根拠がどれだけ示されているかということです。事実関係と判断というものがちゃんとパラレルな関係になっているかどうかです。

事実関係に基づかずに判断だけをしているとか、いろんな事実関係は詳しく書いているけれども、どこにも判断がないとかというのはあまり良い評価ではなくて、事実関係と評価がパラレルになっているかどうかということが重要です。

もう1点は、結局職員の方が自分のやっている事業については、全部○をつけるのではないかというのは、それは○をつけなければいけない風土というか、そういうものがあるわけで、逆に素直に×をつけてもいいのだという風土があれば、真面目に、ちゃんと評価するし、なければ当然、誰がやっても○をつけると思います。

そういう風土とはどういうことかという、例えば×をつけた人が、「何で×なのだ」みたいなことを後で問われるとか、「×だったら、それを直すのはあなたが直してください」って言われるとどうしても守りに入るから、○をつけたがってしまうと思います。

そういう意味でシートという狭い世界でいうと、事実関係と評価ということがちゃんと対応できているかどうかという問題と、評価の後

の受け皿というものが制度として用意されているかどうかという問題があります。その辺をちゃんと整備していないと、確かに誰がやっても○をつけるということだと思えます。

坂野会長

宗和副会長、非常にわかりやすいご説明でございました。

一つは説明責任の問題が、先ほど岩井委員がおっしゃいましたけれども、いかに説明責任を果たすかという点が1点と、もう1点は、いわゆる行政風土というか、その職場環境という問題になるのではないかなということをおもいます。

山本委員、何かありますか。

山本委員

先ほど事務局からご説明してくださっているときにメモをしながら聞いていたのですが、自己評価をするのは、その担当の方たちが評価シートをもとに計画を実施した項目を、何を基準にしてするかということをおっしゃっていましたが、○、×をつけまして、その外部評価、私たち、この審議会でする評価というものが、事務局のお話を伺っていたら、その担当の方が実施したことに対しての自己評価をされたことについて、私たちは外部目線で評価するというのが一つと、それからその信憑性、先ほど説明されていて、その担当した方たちの自己評価に対する評価と二つ含まれているというふうにお話を受けとめたのですけれども、そこはどうなのですか。

坂野会長

では、事務局からお願いします。

事務局(元田)

あくまでも、自己評価の内容をもとに、独自に市民や学識経験者の視点で評価してもらいたいと思っています。

本当は後者の部分というのはないほうがいいのですけれども、ただ、やる目的としては、先ほど山本委員がおっしゃられたように、その部分がなくて、行政の考えだけでやると、他市町村の事業と比べて、例えば白井市だけおかしなところに突っ込んでいく可能性もあるので、その辺の部分についても市民の視点で評価してもらいたいなという、考えがありました。ただ、それ以前に全くできていないものというのもあると思うので、できていないものについては、もう単純に評価シートの前にできていないわけですから、それについて、こういうふうにしたらできるのではないかというアドバイスがあれば本来はいいなとは思いますが、それ以前に、そもそもやる必要あるのかという部分も含めて検討してもらえればなということなんです。

坂野会長

山本委員、いかがですか。今の事務局のご説明は。

山本委員

そうすると、片桐委員がおっしゃったみたいに、じゃあ、その信憑性について、この○の基準がどこにあるか、水準がどこにあるのか。じゃあ、○と×ではまだわかりやすくいいのですが、△の幅みたいなものがあるのですよね。その自己評価をしていただく際の○×△のをどこまでが○って言えるとかみたいなことを最初から共有できていれば、

その二つの手間がないかなというか、私たちが審議する、評価するものがそのどちらか一つにすることができるのではないかと思います。

坂野会長

ありがとうございます。やはり事務局のほうでその線引きとかというのは、今のところは、まだ考えておられないですね。

多分、今の山本委員のご懸念は当たっている部分がございます、実際やってみないとわからないということだと思っております。平成30年にまず各課が事業を実施してみて、その後、自己評価をするというところで、まずやってみると。そこから次の年、その次の年、翌年ということで、今おっしゃられました線引きというか、その基準が職員の方々も見てくるというか、確立すると思っておりますので、初年度はしようがない部分があるかなと思います。

もう1点加えますと、やはり、それはこの外部評価をする行政経営改革審議会の責任でもありまして、市もこちらが怖かったらちゃんとやると思っております。「あそこはもう大丈夫だよ。」というふうに、余りいい言い方ではございませんが、いわゆる「なめられる」と、山本委員のご懸念が余計に強くなるのではないかと思います。

ですから、我々にとっては身が引き締まりますし、きちっとやらなきゃいけないということなのですが、もちろん普段からきちっとやっていますが、より誠実により正確に適切にやらないと、そういうご懸念のとおりになる可能性はありますので、我々の責任も、ますますふえるのではないかなというふうに思います。山本委員の先ほど片桐委員に対する話がありましたので、片桐委員としては、当市の職員の方々に対する評価というのはどういったところですか。

片桐委員

性悪説も性善説もないのですけれども、どうしてもやっぱり人間は自分がかわいいですね。だからAかBか判断できないなと思ったら、どうしても、自分にとって都合のいいほうに選択してしまうのです。

そうなるこの自己評価シート全体に対する信用性がなくなってしまうのですよね。その場合、52項目全部評価するのかということになると、とてもできないだろうと。そのときにどういう項目を抽出するのかということが非常に難しいですね。そこら辺の考え方として、こういうことをやりますと。こういう項目はもうやりませんなどの線引きが事務局にあったら、それをぜひ教えてほしいですよ。

坂野会長

では、事務局のほうで説明してください。

事務局(元田)

その線引きではないのですけれど、先ほどお話いただいたように、まずはなぜ〇なのかということについては説明できるようにしないとイケないですね。

先ほど宗和副委員長もおっしゃっていたように、事実関係と評価の間でその部分については、対外的に説明できる内容じゃないといけないなというのは、お話を聞いていて強く思いました。

実際には、多分事務局がそこを確認して、そこを事務局が審議会で説明するという形になると思いますけれど、明確化していくことは、ちゃんとやっていきたいと思います。

なぜ○をつけたのか、なぜ△をつけたのか、なぜ×をつけたのかということについては、そもそもその考え方が違うのであれば、その評価については、それはちょっとペンディングだねという話になると思いますので、そのあたりについては考えていきたいなと思います。

今の段階で、どういうのがいいということはまだ決められてはいないのですけれど、ただ、そこについては確認した上で、なぜ○なのかという部分については、その担当課とのヒアリングの中でちゃんとやっていく必要があると思いました。

坂野会長

ありがとうございました。宗和副会長もお話しされましたが、やはり課題は、二つありまして、一つは副会長がおっしゃったように行政の風土、あるいは行政の環境というのをいかに築いていくかというのがありますし、もう一つは公務員も確かに素晴らしい方が多いですが、完全ではありませんので、実際に評価をやりながら、試行錯誤しながら、トレーニングではありませんが、実際に皆さんの意見の中で確立していかなくちゃいけない部分ではないかと思います。この段階では、なかなかこうだという話は抽象的な話にしかありませんので、ちょっと厳しいかなという気はいたします。

伴委員、どうぞ。

伴委員

ちょっとポイントがずれるかもしれませんが、このシートを見て評価してくださいということですよ。外部評価としての一審議会委員として、この表で評価はできません。

平成30年度の実績を途中の過程で評価するわけですよ。この評価は最初の目的にありますように、計画どおりにやっているかということと、何か見直すことはないかということですが、そうすると、これで、見直すことはここだよって言えるかということ、言えないなと思いました。

この表は、多分最後の年度末、計画3年間終わった後の評価としてはいいと思うのですが、初年度、30年度だけを見ると、これでどこを改善せよというのは、私には言えません。

このとおりにやってください、進めてくださいという意見を我々は言わなくちゃいけないのだけれど、この表だと難しいですよ。

一つの案として、課の自己評価だけでなく、実務担当者の自己評価を聞きたいと思っています。いわゆる担当者の意見と管理者の意見を聞きたい。そうすれば、それは無理だよねというのか、それは何とかしてやれよというのか、それはちょっと方向が違うよというのか、何かの意見が言えるのではないかと思いました。

それと、もう一つの問題は、評価に当事者がいないのです、担当課と審議会しかいない。52の案件の中の3分の1くらいが、相手方や当事者がいるのです、いろんな当事者のいる案件が幾つかある。その人たちの意見を入れたいのですけれども、それをできれば担当者に確認してほしいです。方法論はちょっとわかりませんが、こういうのがわかると方向性はいいのではないのかと判断できるかなと思いました。

坂野会長
藤井委員

藤井委員、ではお願いします。

私もよろしいですか。私も全く同じように、この表だけだと、もしかしたら評価は難しいかなと思ったのです。そもそも論から私の感想を述べさせていただくと、最初にこの計画の評価にはなっているのですけれども、中身をよく見ると、自己評価を評価するという事になっていて、自己評価をした職員を私たちが評価するという事で、結局は私たちが評価するのは、計画そのものの効果ではなくて、職員の仕事ぶりを評価するという事になっていますよね。

でも大事なものは、こちらにも書いてくださっているとおり、一つ目の進行管理です。進行管理というのはすなわち職員の管理だと思うのですけれども。二つ目の計画を見直すことでより実効性の高い計画とするというのは、これは計画そのものの妥当性の評価だと思うのです。

そうすると、職員の評価と計画そのものの評価というのは、実は別物ではないかという視点に立つと、今回のつくってくださった案というのは、恐らく職員の評価には立脚しているのにもかかわらず、それを迂回する形で計画の評価もできないかというふうにするから話が難しくなるのかなという、印象をまず持ったのです。

それで、職員の評価であるならば、自己評価シートをもって評価するというのは、普通、人事評価とか、私が今、部下に対してやっているような評価で、1年ごとに職員に対して自己評価をさせるのです。それで実際にやっているかどうか全部チェックしています。

そういう評価であるというふうを考えるならば、これは全部○をつけるならば、「あなたたち○をつけるのですね、そういう人たちなのですね。」という評価を下すだろうし、全部×ならば、「自己肯定が低いのですね。」というふうになりますので、それ自体も実は評価の対象になるということであれば、それはそれでいいと思うのです。

ただ、これを用いて計画そのものの評価ができるかといったら、それは難しいと思うのです。そこで私も思ったのは、以前、宗和副委員長もおっしゃっていたと思うのですけれども、評価疲れを皆さん起こしているという話もあって。計画をつくるのにもいっぱい時間をかけ、実行する間もなく、評価ばかりつくれと言ったら、本当に職員の方も疲弊しちゃうのではないかなと思っています。

計画を立てるというのは、ビジネスでもそうだと思うのですが、いい計画を立てられれば、半分くらいは成功したも同然ですよ。でも評価をするのに物すごく時間がかかってしまったら皆さん大変なので、私はこのシートそのもの書きこむような形で評価をすれば、一番手間もかからないし、いいのかなと単純に思いました。

そうすると、今ここが遅れているから全体の計画は遅れるとか、他の項目との兼ね合いも多分見られるのかなと思ったのがまず一つです。

それから、伴さんがおっしゃった、当事者がいないので、例えばヒアリングを担当者がして、当事者の視点も計画の評価に入れるというのは、難しいかなと思うのですよね。そこで私も同じ発想で考えたと思うのですが、何らかの統計を用いることができないかなと。例えば、31ページで、この適材適所の人事配置とかというのは、すごく評価が難しい項目だと思うのですよね。人事課が、自分はすごい配置ができたと思って、○、○、○とやっても、職員の方がストレス溜まっていて、例えばうつ病で休職になってしまった人がふえたとか。そういうようなことだったら、それは、本当は失敗なわけです。

だから、例えば適材適所の人事配置にかかわるような統計として、休職した人の人数や何らかの、何も皆さんが手を加えず、苦勞せずに何かしら毎年毎年とっているような統計の中から、この項目だったら評価項目になるのではないかな。みたいなものと結びつけをすれば、その数値が上がっていけばいいのではないかなと。例えば、それは健康診断でいうならば、運動したから血糖値が下がりましたねとか、そういうのと同じような形で、何らかの数値をつくるのではなく、既にある数値目標で統計を利用できないかなと思ったのが私のアイデアです。ちょっといいかどうかはわからないのですが。

坂野会長

事務局(岡田)

ありがとうございます。事務局のほうから何かございますか。

今、いろいろ委員さんからお話を伺って、確かにどれもみんなごもつものご意見だと思っていて、それらを取り入れられると一番いいなとは思っているのですが、先ほど言っていた、私どもが今回これを考えたのは、藤井委員が今おっしゃっていた、評価疲れを案外私たちのほうも重要視して、それでこのような形でつくり上げたらどうかという案をつくったということです。

それで実施計画書の説明でもありましたが、こちらのA4の1枚で全て対応していこうということも考えたのですが、やはり年次がだんだん、だんだんふえてくると、この中で収まりきれないのではないかと、いうところもあって、別のシートで実施する案を示しました。

ただし、そこには各年度の目標は必ず入れ込んで、それに対してどれだけ実施ができたのかというところをきちんと書いていただこうと

というようなところに今回は考えたというのが私どもの案でございます。皆様方のほうでいろいろとご意見をいただいて、それらを参考にしながら、私どものほうでまたこのシートについての検討をするということは当然やっていきたいと考えております。

坂野会長

ありがとうございます。今回伴委員と藤井委員から三つの問題が出されました。

一つはこのシートはこれでいいのかという議論でございますが、これは改善の余地等もあるというご指摘がありましたので、先ほど藤井委員が、評価のこの実施計画表を見てやったほうがいいのではないかとというようなご意見が出ましたので、この両方を使いながらやるという、これも一つの案なのかもしれません。ですから、その1点ということと、二つ目が、伴委員から出ましたが、実際に担当者の意見を聞かなくてはいけないのではないかとという話になります。

これは二つありまして、一つは紙ベースで出てくるもの、もう一つは藤井委員のおられる中野区でやっているような全部の担当者呼び出して、全部審議をする、意見を聞くという。あれは大変だと思いますが、恐らく2週間くらいかけて、みんなでやっていらっしゃるのだと思いますけれども、そういうやり方があります。

現在、本市では、市民参加推進会議ではそういったことをやっておりますが、それは全部の担当課ではなくて、一部の問題があると言われる担当課を呼んでヒアリングをしているかと思えます。そういうようなやり方もございますので、それが2点目かなというふうに思えます。ですから、一部の担当課から意見を聞くという話ですね。伴さん、そういう感じですか、イメージは。

伴委員

いや、私は、それは大変だと思うのですよね。現実的に考えると相当難しいでしょう。期間の中で全ての案件をやるというのは。この案件はやって、この案件はやらないというわけにはいかなくなってくるとすると、全案件やらなくちゃいけない。そうすると、それは無理だろうと思うのですね。

そうすると、私は今、藤井さんが言われたように、この計画案件というのは、3年間使うのですよね。そうすると、これに対してこちら側に3年間の1年目というやつを、この項目の全てにいるかどうかは置いておいて、それを書いてもらったかどうかでしょうか。で、ここで、我々の審議会で、いや、それは違うよと、方向性をこっちに直してよと言ったら、こっちの案件も、この計画も赤字で直していかなくちゃいけない。あるいは線も赤字でもうちょっと短くしろみたいな話になるかもしれない。そうすると、この表とこの実行シートは対になっていなくちゃいけない、3年間。最後の最後になると、この表が出てきて。こっちはもう多分、上のほうには行かないのだろうと思いますが、この表くら

い。もっと簡単な表で評価が。これを聞かれたときに、これは何だっ
て言われたときには、ここはこうなっていますよということが、元の担
当者の意見から、我々審議会の意見までが1つに反映されたシートがな
いと私もつらいところがあるなという感じがしています。

坂野会長 では、まず皆さんに一つ合意を取りたいのですが、今、伴委員のご発
案がございましたように、まずは紙ベースで、皆さんで審議をする
ということについては、皆様、これはよろしいですか、片桐委員、よろ
しいですか。

片桐委員 はい。良いです。僕が今回問題にしたのは、52項目全部やるかどう
かですよ。これを52項目全部やると思ったら、とても1日や2日じゃ終
わらない。とにかくその中でこれとこれをやってくれというふうに抽出
するのかわしないのか。全数調査なのか抽出調査なのかということがあ
ります。抽出する場合はどういうものを我々が審議するのかを明らか
にしたいと思っています。

坂野会長 わかりました。皆さんに合意をとりたいと思いますが、1点としては、
紙ベースで評価するというところでよろしいですか。では、紙ベースで
やる。これが1点です。

今ちょっと片桐委員から出ましたが、恐らく悉皆調査、ことごとく
やるという全数の調査と、抽出、サンプル調査というこの二つの調査
がございますけれども、事務局としてはどのようにお考えですか。お
願いします。

事務局(元田) 先ほど説明したとおり、事務局案の内容としては、できていないも
の、先ほどの説明ですと、不良な取組項目については必ず審査しても
らいたい、内容を見てもらいたい。何かそもそも欠点があるかもしれ
ないので、ここに遡って見ていただきたいというふうに思っています。

それ以外は、確認というか、チェックしていただくことになると思
います。ただ、その部分が、自己評価が正しいのかという話になるの
ですけれども、その部分で、そこについては立ち返ってということ
を考えていたのですけれども、それ以外の部分については、どこだけ
やってくれというのは、現状で他の指標については、いい案がありま
せん。

ただ、うちとしてはできていないものについては評価しなきゃいけ
ない、評価というか見直しも含めて考えることは考える。先ほどおっ
しゃったように、ここに立ち返る必要はあるのかなというふうには思
っています。

坂野会長 ありがとうございます。非常に片桐委員のご意見というか、話は非
常に素晴らしい話でございます。今、事務局のほうでももちろん決
まっていないという話になってしまうのですけれども、これについて
は正直に申し上げまして、どういう自己評価がなされてくるのかとい

うものによって全く話が違うと思います。そこで、これはある程度職員の方々の自己評価が出た段階で考えなくちゃいけない部分もあるかと思うのです。その度合いであるとか、先ほど藤井委員もおっしゃっておられたことですが、どの程度の話を書いてくるかとか、伴委員もおっしゃっていましたが、こんなにたくさん書いていないのではないとか、そういうものもありますので、ある程度出揃った段階で、一緒に議をして決めたほうが良いような気はいたしますが、いかがですか。

伴委員 少なくとも、行政経営戦略会議に我々審議会の答申を出すとするれば、全件は見なくちゃいけないという原則はありますよね。それは見ませんでしたという話はないですよ。そうすると、その見方によるわけですから。

坂野会長 深さですかね。

伴委員 だから、それでもう皆さんが事前にバツと読んで、これはいいというやつは、余り審議しなくてもいいのですよね。それはやり方の問題かなと思うのですがね。

坂野会長 そのあたりの議論もありますが、片桐委員、その辺でよろしいですか、そういう話ですか。

片桐委員 なぜこんなことをしつこく言うかということ、感覚がちょっと違ってくるからなのです。例えば、僕の経験ではこういう事件がありました。

以前、効率性を示せと、言ったときに、あるセクションからは、「1人当たりいくらかの予算を消化したから今年は、非常に良くやった。」という意見がありました。

「そんなのコストをかけたただけではないか。」って言ったのですけれども。そうではなくて、本当は、「コストをどれだけ削ったか」、「1回当たりのコストをどれだけ削るという決断をしたか」というのが効率性のはずなのです。

それが、いくら使ったかということで評価をしてしまった。それで持って自分たちはよくやったというふうな自己評価をするわけです。そういうときにどこまで見ていくのかというわけです。

そうすると、全部の事業を見ていかななくてはいけない。これは大変なことです、実に疲れるし、時間を食うし。こんなの1日や2日で終わらないですよ。

坂野会長 中野区は、実際に2週間とか1カ月くらいでやっていますね、みんな。グループで分かれていますけれども、やっていますね。大変だと思います。でも皆さんお仕事もおありの方も多いでしょうから、つきっきり2カ月とか1カ月ここに張りつくわけにはいかないのです、それはそのとおりだと思います。

今の片桐委員の重要なポイントは、この成果指標、あるいはその指標が何かということが評価の場合は、非常に問題になるわけです。その評価の指標をしっかりとある程度固めれば、片桐委員の言っているような話も指標で出てくるかと思うので、その指標を、ここでは今回議論できませんが、どこかで議論しなくてはいけないかなという気はいたします。片桐委員、そういうことですよ。

片桐委員
坂野会長

そうですね。

また副会長とも議論をいたしまして、お話ししながら、そのことについてどこかで議論したいと思いますので、副会長、ご協力のほどお願いできますか。

宗和副会長

確かに、外部の人間が評価するストーリーとして、実務として実際やる作業も含めて、ストーリーとしては、まだ矛盾をしているというか、全体が整合していないかなという気はしますけれども。入り口から考えれば、そもそも我々にどういうことを期待されているのかということをやっと整理されたほうがいいかなと思います。

山本委員のコメントや藤井委員のコメントも最もだと思うのですが、自己評価を評価するのか、今のこういうやり方がいいということの評価なのかで全然違うから。どういうことが我々に期待されているのかということをはっきりしていただいて、それによっては、このシートでは全然情報が足りないということもあるし、いろいろ書いてもらうよりは、もう所管が自分で説明するほうが早いという話かもしれませんし。それと、もし計画の進捗状況のほうを評価するのであれば、できた、できてないということだけではなく、できましたね、とか、できていませんね、と言うだけではない。

確かにこのスケジュールの見直しにつなげたほうがいいかなって。例えば30年で矢印が終わって、次、31年に行っていいですよという話なのか、もうちょっと30年の取り組みを続けたほうがいいのじゃないですかとかというのは、スケジュールに反映させたほうがいいような気もします。

今、入口から考えていったら、そういう手順なのですけれども、今度出口のほうから考えたら、確かに、今度は我々のほうも戦略会議に何かを出すというのはそれなりに重いので、結構重たい意見を求められているのだけれども、もともになるシートというか情報量が少ないのだったら、やっぱり出せない。

意見が言えないというものは意見が言えないと言わないといけないし。そこのアウトプットの重みもちゃんと考えて請求してもらわないと。例えば時間切れでとりあえず全部いいです、いいです、いいですというのが並んだときに、どう判断していいのですかって言われたら、そんなに、1件5分くらいしか審議していませんみたいなのは、ちょっと

と我々も厳しいじゃないですかという気はします。

坂野会長 ありがとうございます。副会長のおっしゃることが、この進捗管理というのが一般的にはスケジュール等からやっていくことが多いと思いますので。

宗和副会長 そうですね。もし計画の進捗管理をしてくれというのだったらそうだし、自己評価の評価をしてくれというのだったら、またやり方が違います。

坂野会長 ありがとうございます。

藤井委員、よろしいですか、今の話。

藤井委員 今、お話を伺いしながら、介護認定審査会の介護認定とちょっと似ているなと思ったのですけれども。明らかにこれはもう介護3とか介護4とかわかりやすい人はバーっとシートで行くのですけれども、難しい場合にはドクターの意見などをじっくり精査して、これはこうだね、こうだねというのを評価していくわけですよね。多分、この中でもすごくわかりやすい部分とわかりづらい部分、評価しやすいものと評価しにくいものがあると思います。

最初から、例えば抽出のように、やっぱり重くみるものとそうでもなくていいものというのは、あらかじめ分けておいたほうがいいかなって思ったのと、あと、メタ分析じゃないですけれども、メタ評価というものを一つ入れたらどうかと思いました。

例えば、この評価シートの一番右上に、人づくりか、仕組みづくりか、あるいは新規、見直し、改善それぞれあるので、例えば人づくりの分野で考えると、全体的には総合何点くらい、仕組みづくりはこうなっているみたいな感じで、まずは全体として、多分、人づくりに比べて仕組みづくりのほうが達成率は低いとか、大体のやりやすさ、やりづらさみたいなもののメタ評価みたいなものを踏まえた上で、そこを前提に評価するみたいなものがあるかともいいのかなと思いました。

坂野会長 藤井委員、申し訳ないですが、そういう個別的な事例をお持ちだと思うので、その辺のご説明をしていただければと思います。

藤井委員 個別事例とかは全くないですが、例えば、一個一個、個別に評価するときに、やりやすい事業なのかやりづらい事業なのかというのは、多分あると思うのです。人づくりなんていうのは、例えばスパンがとても長くなって効果がすぐに見えないものだと思うので、やったかやらないかというのは簡単なのですけれども、人間、人材を育成できたかどうかというのは、効果がずっと先にならないとわからないようなものというのもあると思うのです。そういう場合に、仕組みづくりは、センターをつくりましたとかあるので達成したものが、すごくわかりやすい。そういった意味でいうならば、例えば、人づくりは、△が多かったり×が多かったりするかもしれないけれども、仕組みづくりは○

が多い。そうすると、「これができていないのは、何故だ。」と言われた場合、「いや、でも人づくりというのはそういうものですから。×が多くなりがちなのですよ。」というようなベースラインがあった上での個別の評価ということで、そのベースラインの評価という意味でこの枠組を使った上でまずはメタ評価をしておいて、その上で個別評価というようなものが必要かなって思いました。

坂野会長
本松委員

本松委員、何か、今までのところで。

私もこの評価シートを最初に見ただけでは評価の仕方がわからないです。いろいろお話を聞いていくうちになんとなくイメージが沸いたのですが、そこで、少し確認したいのですが、この自己評価シートされたものを自分たちが評価していく上で、「できました。」と言われても、本当にできたかどうか、というのは、やはりどうしても現場を見ないとわからないので、そういったところをどういうふうに、実際にできたかできないかという資料を評価の際に見ることは可能かどうか教えてください。

評価の基本的な部分がわからないので、自己評価だけを見て、私が判断するのは難しいかなと思ったのですが、どのような感じなのでしょう。

坂野会長
山本委員

山本委員も今の本松委員と同じような疑問をお持ちですか。

報告書だけで判断しろと言われて、計画書の関係性とか、そういった結果というか事後に1年のスパンでやることを1年半後にポツッと出た時には、1年間の間に、1年かけてやらなきゃいけないことが、その節目、節目でずっと進捗を迎えていくのが積み重ねなので、やっぱり結果、評価、結果、評価と細かく幾つもあるの最後にそこへ行くと思うので、経過もわかっていたほうが良いのではないかと思います。

それが先ほど藤井委員が言ったように、計画表が付随してあれば、実施している人たちもわかりやすいし、後から見る私たちも多分それからでもわかりやすいと思います。

坂野会長

ありがとうございます。1点、事務局に確認なのですが、当然資料はその場その場で出していただけるのは間違いないですね。

事務局(岡田)

はい。それはもちろん出します。そういうようなご要望が出た場合にはもちろん出させてもらいます。

あと、私どもが考えているこの評価は、このA3の資料の(1)のところにあるように、進行管理、この事業の進行管理というところを評価してほしいという、そういうことで私どもは考えているということで、皆さんご理解いただきたいと思います。

坂野会長

今、事務局のほうからご意見が出ましたけれども、先ほど副会長のほうからいわゆる進行、あるいは進捗管理というようなものをもとにしていきたいということで、今、事務局のほうから大体の方針が示さ

れましたので、一応そのようにご理解いただければというふうに思います。

前にも、先ほどのお話で、最後1点だけ、出てこなかったお話なのですが、当事者の意見という話です。

藤井委員が統計の指標を使うということでしたが、一般論としては、私の経験上、アンケートをたくさん書いてもらって、それを指標にすることが非常に多いと思います。

もちろん、市のほうでどれくらいアンケートをとっているかということは、我々のほうで確認をしていなければいけないと思いますので、そういった当事者の方々のアンケートはどれくらいの蓄積があるか、どれくらいの比率でなされているか、実際に分母に対しての分子ですね。どれくらい書いてもらっているかということについても確認できればいいなというふうに思います。伴委員、それでよろしいですか。

伴委員 結構です。実は、この計画では、平成30年度の取組みを横にザッと見ていくと、何々を検討しますというのが多いのですよね。何とかの原案をつくりますとか、検討しますというのが、30年度の実績として出てくると思うのですよね。

事務局(岡田) 検討の場合は、どういう検討をしてきているのかというところを委員さんのほうにはお示しをしていきたいと思っています。そこが多分書かれていないと、今、伴委員がおっしゃったように、わからないということになると思いますので、具体的にどういう検討をしているというところを書き込みしていきたいと思っています。

伴委員 平成30年度では、多分半分くらいがそうなのですよね。実務に動いているということはあるまい。

坂野会長 恐らく多分、山本委員が先ほど疑問に思われた点と重なってくるかと思いますが、伴委員の今おっしゃったような話で、どこかで中間報告をしてもらうという形になるかと思いますが、その方法等は、また事務局のほうで。

伴委員 そうですね。中身の問題ではなく、それを取り組んでいる進捗状況なわけですから。やはり、それを何かの方法でわかればいいのかと思います。

坂野会長 そうですね。それも聞くなり、あるいは書いてもらうなりということを出してもらえればよろしいかと思います。実際は粛々とやってらっしゃるという話になると思うのですが、その様子がわからないというのが、やはり外部の人間からは不信になると思います。

先ほどの片桐委員じゃないですが、行政の不信というのが非常に問題なのだと思います。やはりその点なのですが、岩井委員、今までのところで何かご意見等ありますか。

岩井委員 さっき僕が最初に説明責任と言ったのは、外部が見て評価するわか

りやすいものがない。というところがあると思うのですよね。抽出するにしても、抽出するという理由を明らかにして、我々がやるのであるならば、やれるという何らかのわかりやすいもののほうがいいのではないかなというふうに、今までの話を聞いていると感じてしまいます。

坂野会長 ありがとうございます。岩井委員のおっしゃりたいのは、我々も審議会として、市民に対する説明責任も考えていかなくてはいけないというお話ですよ。

岩井委員 はい。ですので、それを説明するための材料として、ここが不明だということだと、先ほどあったように、時間だけを費やすというか、はい、OKということにもなりかねない部分もあるので、何らかの皆様方から出た意見というもので、わかりやすく、例えば、スケジュールであるならば、スケジュールを計画と一緒に見れば、あ、これは遅れているなというのが一目瞭然なので、これは抽出しなきゃいけない、とわかるわけですよ。でもそれがなくて、遅れています、ということだけだと、どれくらいかもわからないので、何らかの見てわかりやすく、これを抽出したとかいうのがあるほうがいいのかと今までの話を聞いて僕も思いました。

坂野会長 ありがとうございます。やはり、資料1にあります、結果的には30年度評価シートに基づき全事業評価という、5月の段階でいかに、それをなぜ取り上げたかというのを見えるようにしなくてはいけないという岩井委員のご意見ですよ。今、非常にいろんな世界で見える化という言葉がはやっておりますが、まさに見える化というものを我々もどこかで考えなくてはいけないということだと思います。

そこでやはり片桐委員がおっしゃっておられた指標という、そういう話になってしまうのですが、進捗管理ですから、実際に、先ほど宗和副会長がおっしゃったように、その進捗管理のときにそれを意識していけばよろしいかというふうに思いますし、先ほど事務局のほうからもご意見が出ましたので、そちらのほうを重点的にやっていきたいと思います。

副会長、それでよろしいですか。

宗和副会長 そうですね。ちょっと整理を1回していただいて、確かにやりながら考えていかないといけない部分とかもあるのだろうとは思いますが、我々もあんまり無責任なことばかり言えないので、本当に実際できるのかどうかということも含めて考えていきたいと思います。

坂野会長 そういう意味では、この平成31年5月からですが、我々にとっては、試行という段階から入ると思います。来年度は、恐らく審議会として、余り集まる機会もないかもしれませんが、平成31年から皆様と一緒に、心していかなくてはいけないということになるかと思えます。

今までのところで何か、ご意見ご質問等ございますか。山本委員、よろしいですか。もしご懸念、あるいはご意見等があれば、今のうちに承りたいと思いますが。

山本委員 多分、計画書に基づいて、いろいろその評価というのを真摯に、担当されていると、こういう項目も評価するために必要というものが、今までに出てくることのあるのではないかなと思うので、そうしたら、そういう部分も加えるなり、していければ良いと思います。

坂野会長 実際やってみないとわからない部分がありますからね。

本松委員、いかがですか。大丈夫ですか。

本松委員 はい。最初から全て決めていくのは難しいと思うので。

坂野会長 伴委員、いかがですか。よろしいですか。今のこういったご意見については。

伴委員 評価というのは、基本のやり方というのは余りないので、非常に難しいだろうと思います。ただ、何回も言うようですが、市民の皆さんがわかりやすい結果を出したいというのはあります。非常に難しいのですが、自己満足でやって、ワーンと終わったなんて言われたいようにしたいです。

坂野会長 ありがとうございます。

片桐委員、何か。

片桐委員 ないです。

坂野会長 大丈夫ですか。ということで、結論になると、最後はわかりやすさという話でまとまってきたかと思います。難しく言えば、説明責任であるとか、その明確性という言葉だと思いますが、やはりわかりやすさということで、いかに市民の方々に対して、我々、この当該審議会に関しても、そのわかりやすさというものを出せるかどうかというのが1点。

もう一つは、これは期待せざるを得ませんが、市の職員の方々が、どのように我々に対してもわかりやすいご説明で進捗状況をご報告いただけるかという、この2点にかかってくるのかなという気はいたします。

何か今までのところで補足あるいはさらにご意見等ございましたらお伺いしたいと思いますが、事務局のほうで何かありますか。どうぞ。

事務局(岡田) 今、これまでの議論の中で、もしかすると委員にうまく伝わっていないところがあるかも知れません。

もう一度だけ、評価の役割というところのこの資料の左下の表、そのところをご覧いただきたいのですが、外部評価の皆様方のところの評価対象については、全事業ということで確かに記載をしてはあります。ただし、これは今現在ですと、52の事業になっています。

こちらについては、先ほどの説明が早かったので、聞き漏らしているかもしれないのですが、計画どおり行っているものについては、確認をしていただいて、そこでその件については終わりにする。

計画から遅れていたりするものについては、ここは一件、一件の審議をしていただくというような案を事務局で考えておりました。

それとあとは、今、委員さん方からいただいた意見については、これから私どものほうでもう一度よく整理をし直して、もう一度評価シートをつくって、一度会長のほうにも見ていただいたりしながら、次回、今現在予定しているのが5月から6月ですが、この評価について、一度会議を持ちたいなと思っております。

その時に今回のご意見をもとに、私たちの考えも入れたもので、それで皆様方にお示しをしていきたいと考えております。以上です。

坂野会長

ありがとうございます。今、課長がおっしゃっていただいたように、私も当初は進捗状況の管理ということなので、容易に判断できるものだというふうに思っておりましたけれど、いろんな視点があることを本日ご意見としていろいろ伺うことができました。

これらのご意見は、事務局でも真摯に受けとめていただいたと思いますので、それらを踏まえて、この評価シートもさらなる改善等を加えていきたいと思えます。

もちろんお任せいただけるのならば、私と副会長のほうにお任せいただければ、事務局のほうとのやりとりで改善をしていきたいと思えます。よろしいですか、それで。

では、事務局のほう、では申し訳ないのですが、そういうようお願いしたいと思えます。

事務局(岡田) はい。承知しました。

坂野会長

お願いします。2点目なのですけれども、これからの我々のスケジュールについては、皆様、気になっておられるのではないかと思いますので、先ほど岡田課長から説明いただきましたが、再度、実際に30年度のスケジュール等について具体的な話をお伺いできればと思えます。

事務局(元田)

先ほど、説明させていただいたように、今回いただいた意見をもとに、再度事務局で評価方法について検討を行いまして、5月の後半から6月頃に再度審議会に評価方法について付議していきたいと思えます。来年度については、事業を始めたばかりですので評価は、行いません。来年度はあくまでも評価方法の決定をテーマに議論をいただくこととなります。来年度の会議回数は、今のところ、1回を考えています。

今回、私の説明がわかりづらかったところがあるかもしれませんが、ベースはやはり進行管理です。計画どおりできているか、できていないか。という評価となると思えます。

宗和副会長からもお話がありましたが、入り口の部分で少しわかりづらくなってしまったところがあるので、そこはもう少しシンプルにして、あくまでも進行管理をベースとした案を示していければと思えます。

また、自己評価の部分をどう使うのかという部分についてなのですが、そこについては、もう一度、市で検討していきます。

ただ、自己評価の部分で説明しましたが、明らかに成果が上がっているものについては、詳細な評価を行う必要性は薄いので、そこについては、岩井委員が言われたようにわかりやすい形で除けるように。判断の中で除外したということが客観的に説明できるような形にしていきたいと思っています。

坂野会長

ありがとうございます。今、事務局のほうからお話でしたが、やはり進捗管理、あるいは進行管理というものなので、非常に、本来は見てわかるような部分がありますけれども、片桐委員がおっしゃっておられるように、ちょっとどうなのかなという部分はあるというご懸念もあるかと思います。

私どもの感想ですが、先ほどの事務局からも最初にありましたが、ヨイショするわけではありませんが、例えば、言い逃れを食いとめる、あるいは逃げの見直しであるとか、隠れた実施状況の不良を出すというような覚悟を事務局でお話をされていたので、非常に担当の事務局の皆様も覚悟が決まっているのではないかというふうに見えました。

片桐委員

片桐委員、事務局からご説明がありましたが、いかがでしょうか。個人の話ではなくて、組織としては、大体自己防衛とかそういうものがあるのだと思います。

坂野会長

そうですね。その辺は事務局としても厳しくチェックするとおっしゃっています。ですから、そういう意味では、進捗が遅れていた場合は、我々のほうでも申し上げなくてははいけませんし、事務局のほうからも厳しい指摘が、あるいは我々に対するアドバイスもあるのではないのかなと思っています。

ちょうど、私が考えていた時間ぐらいになりましたので、何か皆さん、最後に、皆様のほうからご意見、あるいはご質問はございますか。

宗和副会長

では、副会長、何か最後にお話がありましたら。

坂野会長

また。そのときに言います。

わかりました。

では、事務局のほうから、その他連絡事項等ございましたらお願いします。

事務局(岡田)

特にありません。

坂野会長

わかりました。では、ちょうど考えていた時間になっておりますので、これにて終了したいと思います。皆様、暖かいといえども、夜は寒いと思います。お気をつけてお帰りくださいませ。どうも本日は慎重審議ありがとうございました。お疲れさまでした。

(終了：午後8時25分)